

# やまとの名品 天理図書館



## エディストーン灯台 The Eddystone Lighthouse

1824年 210×313mm (銅版画 メゾチント)

原画 ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー  
Joseph Mallord William Turner  
彫版師 トーマス・ゴフ・ラプトン  
Thomas Goff Lupton

掲出画はターナーの原画による銅版画『エディストン灯台』（一八二四年）で、当館が所蔵する岩井尊人氏蒐集版画素描コレクションの中の一葉です。

ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー（一七七五—一八五一）はイギリスを代表する風景画家です。色彩豊かな水彩画や油彩画で知られていますが、自身の下絵による銅版画にも力を注ぎ、多くの傑作を残しています。描かれてある灯台はイギリス海峡の南西プリマス港沖にある航海の難所、エディストン岩礁に建てられたものです。波濤・難破船・雲の切れ間の月明かり、光と闇

のコントラストや劇的瞬間の構成はターナーの得意とするところ、これらのモチーフを微妙な濃淡により表現しています。



「エディストン灯台」(部分)

一般的には素朴で穏やかな絵

が人々に好まれるターナーですが、嵐や火事等、危険をはらむ題材にも惹かれていました。また、好んで海景画を描き、高い評価

を得ています。一八世紀末から一九世紀初頭はフランス革命からナポレオン戦争へ続く時代ですが、フランスと戦う英国海軍の活躍もあって、海景画は需要

がありました。

顧客やパトロンにも恵まれ、若くして成功を収めた天才ターナーは、英国貴族の好みに応じて美しい古典的な絵を描く一方で、感情や個性を重んじるロマン主義的絵画も手がけ、様々な画風を同時にこなしていました。また印象派や抽象画という言葉もない時代、すでにそうした絵を描き、理解を得られず批判を受けながらも、描きたい絵を描き成功したターナーでした。

日本では明治初期のベストセラー『西国立志編』の中に、また漱石の『坊っちゃん』や『草枕』にターナーが登場しています。

（天理図書館 多田裕子）